

ブラジルの剣道

(滝澤建治 厚木剣道連盟会長・記)

今回のブラジル剣道紹介記事は、地元「愛川」が関係します。一昨年、愛川の剣道仲間が電話で、『ブラジルの石橋という先生が 8 段挑戦で愛川に来ている。稽古にお連れしても良いですか?』という連絡をくれました。もちろん快諾、お見えになった石橋先生は、鍛え上げた体から穏やかな気持ちの滲み出る、何とも好感のもてる紳士でした。

8 段挑戦まで、何度も稽古に通われましたが、結果は残念、不合格でした。

『これで諦めません。また挑戦します!』と言い残され帰国されました。

それから、メールのやり取りが始まりましたが、メールをいただくたびに石橋先生の魅力は増して行きます。それは先生が「日本人が本来持っていた日本人の良さ」と言ったらよいでしょうか、今の我々が見逃してしまうようなことに、先生は大事なものを感じ取ってお出で、これから自分も日本人として、こうありたいなと思う気持ちになりました。

石橋先生の奥様は、現在愛川に滞在されてお仕事をされています。先生は 11 月 27 日の 8 段審査に挑戦されるそうで、愛川と厚木で稽古を積まれます。

今回、厚木にはブラジルで熱心に初心者指導を続けるルイス・ギルモン 5 段とお二人で、時差 12 時間の「地球の反対側から」の参加です。

ブラジルの剣道人口は、このところ少し減ってしまい、連盟登録会員 800 名だそうです。先生からの連絡からは、困難な状況が伝わってきます。

(石橋先生のメールから引用です。)

《ギルモンさんが率先して始めたスサノ市役所の援助を受けて始めたグループは、100 人近くまでなりましたが、現在続けている人は 30 人です。これは会費が払えない人たちで、連盟加入が難しい人たちです。彼らを使用している防具 10 組はギルモンさんが寄贈なされたものです。ブラジル最南端の Rio Grande にも 100 人ほどのグループが出来ましたが、竹刀を買うことも出来ない人が多く、何人残るか心配です。》

お二人以外に、ブラジルの 8 段の先生があつぎ剣道祭に来られますので、簡単にご紹介します。

昨年秋の昇段審査で、サンパウロ生まれの、海外で剣道を始めた剣士で初の 8 段に合格された、岸川ロベルト先生です。ブラジル代表として世界大会に 5 回出場。お父さん、弟さんはじめ皆さんが 7 段をお持ちで、ブラジルに「武士道精神を伝える岸川一家」として有名です。その一族からブラジル始まって以来の 8 段合格者が出た功績をたたえ、

ブラジル教育統合協会から「社会に好影響を与えた人間」に与えられるグランクルス(大十字)勲章を授けられています。

現在は、ビジネスマンとして香港に住まわれて、香港ナショナルチームのコーチをされています。今回の「あつぎ剣道祭」には、香港の皆さんと一緒に参加されます。
*写真は「剣道時代」誌より掲載許可を得て掲載しております。



今年3月、グランクルス(大十字)勲章を受章。剣道をすることをすすめた父岸川吉朗氏が代理で出席



京都で開催された第10回世界剣道選手権大会でブラジルは3位入賞。岸川氏にとって最後の世界大会出場だった